



学校だより

5月号

横浜市立大道小学校
平成31年4月25日

学校ホームページ：[横浜市立大道小学校](#)

検索

校長 加藤 和之

「和」の意味をかみしめる

若葉萌えるよい季節になってまいりました。皆様には、ますますご清栄のことと存じます。今年度は5月最初の登校日が、新天皇即位に伴う改元のための「10連休」の後になるので、例年より早く5月号の「学校だより」をお届けすることになりました。いよいよ、「令和元年」がスタートする5月です。

「令和」の「和」です。「国語辞典」でこの漢字を調べてみました。



【読み】「わ」「やわらぐ」「やわらげる」「なごむ」「なごやか」「あえる」など

【意味】①おだやか。のどか。ゆるやか。あたたか。

②互いに気が合う。争わない。

③調子を合わせる。調合する。 など

「和」でイメージするのは、まず「寒さが和らぐ」「痛みが和らぐ」のように、厳しい状況がおさまって穏やかになることや、「和やかな雰囲気」というように気持ちがホッとして、体の余分な力が抜けるといったようなことでしょうか。一方、小学生向けの「国語辞典」で調べてみると、最初に出てくるのが、この意味です。

なかよくする。 「和解」「調和」「平和」

私は時代が変わろうとも、この「和」を大切にしなければならないと思います。そのために、学校はどうあるべきでしょうか。

最初から気が合う子、好みが同じ子と「なかよくする」のは難しいことではないでしょう。しかし、たくさんの子どもと一緒に生活するのが学校です。感じ方や考え方も人それぞれです。そんな中で、「みんなとなかよくする」ためには、「自分の考え」と同時に、「友達の考え」も大切にしなければなりません。自分の思い通りにならない時、相手を受け入れずにいがみ合うのではなく、時には譲り合ったり、お互いが納得するよう新たな考えを生み出したりすること、言い換えると「折り合いをつける」ことができるようにするのが大切だと思います。学校では、いろいろなことが起こります。「〇〇さんはどう思っただろう。」というように人の立場で考えたり、友達と話し合いながら問題を解決したりする経験を積み重ねられるようにすることで、子どもは「和」のもつ大切な意味や、それを実現させる難しさを実感的に学ぶのではないのでしょうか。

「自分の幸せ」だけでなく、「みんなの幸せ」を考える人を育てるのが、学校の役割だと考えています。小学校はそのための基礎を養う場所です。様々な「つながり」の中で、子どもたちが「よりよい自分」をつくっていきけるよう支援していきたいと思っています。